

花一会の本を検索

【TEL&FAX】

0136-57-6085

【MAIL】

hanaichie@voice.ocn.ne.jp



Facebook



Instagram



Twitter

花一会図書館便り

6・7月号（令和3年7月1日発行）

郷土資料、整備中。



役場に保管されていた町内各学校の資料（閉校記念誌、開校記念誌など）と各市町村史を花一会図書館資料として登録し、何処にどの資料があるのかをパソコン上で把握できるようにしました。学校関連資料は花一会図書館、市町村史は役場3階図書室にあります。

※※市町村史を閲覧または貸出し希望の方は、花一会図書館へご連絡ください※※

赤ちゃん向けおはなし会



毎月第1金曜日の午前中、0～2歳児向けの「ぴよぴよおはなし会」を開催しています！コロナ禍ということもあり、限定4組（事前申込制）のこじんまりとしたおはなし会です。

絵本の読み聞かせの他に、わらべ歌を歌いながらふれあい遊びも。保護者の方からも好評です(*^▽^*)図書館へ行ったことがない！というご家族も大歓迎ですよ♪

（詳細は花一会図書館 SNS 又は HP へ）

今月のおすすめ本 コーナー



『俺と師匠とブルーボーイとストリッパー』 桜木紫乃 著 (KADOKAWA)

いよいよ脂が乗ってきた桜木文学の新境地。50年前の釧路のキャバレーを舞台に、どこにも行けず何者にもなれずにいた20歳の若者と、それぞれに過去のある芸人3人とのたった1ヶ月の邂逅を、伶俐な表現に暖かさを共存させて描き切った。
(蘭越町 笠井三葉留)



『小隊』 砂川文次 著 (文藝春秋)

戦場は釧路。敵はロシア軍。作者が元自衛官だけあって描写の一切に戦闘のリアリティがある。しかし本作の主眼はそこではない。生命のやり取りの果てに、生き残った者の前に広がる、ある意味カタルシスの世界こそが究極の命題となるのだ。
(蘭越町 笠井三葉留)



『危険な斜面』 松本清張 著 (文藝春秋)

正月ドラマのシナリオベースとなった「拐帯行」を含むサスペンス短編集。全体的にリアルで仄暗い感情描写と苦い後味。「投影」は、都会から逃げ果せた記者の青年が田舎町での事件を通じて熱意を取り戻していく、良い意味でいつもの清張らしからぬ爽やかな終幕。



『夏への扉』 ロバート・A・ハインライン 著 (早川書房)

6月に主演・山崎賢人で映画化された往年の名作SF。裏切りや不運な事故の中でも懸命に前進する(そして筋金入りの愛猫家)主人公の姿に心地良さを感じる。舞台が1970年代アメリカの原作、90年代日本の映画、細かな違いを見比べるのもきっと楽しい。

自分を傷つけながら生きるなんて、あんたどれだけドMなの？



『自分を傷つけながら生きるなんて、あんたどれだけドMなの？』 堀ママ 著 (ダイヤモンド社)

アラフィフでおネエで婦人系漢方相談がお仕事の堀ママ。女性の様々なお悩みに、おネエ目線や東洋医学的目線でアドバイス。おネエ語全開アドバイスに、心がすーっと軽くなります。80年代の懐かしいネタが所々にちりばめられていて、クスッと笑えますよ。



『「文章術のベストセラー100冊」のポイントを1冊にまとめてみた。』 藤吉豊、小川真理子 著 (日経BP)

表題の通り100冊の名著から得た共通のノウハウや有用なポイントを要約した、忙しい現代人に大変ありがたい文章術本。巻末の書籍100冊リストから気になる1冊を更に深掘りして知識をとことん深めるなど、読書案内本としても◎。整理された情報は強い。



『その道のプロに聞く生きもののワオ!』 松橋利光 著 (大和書房)

大人も子供も楽しくてタメになる万能エンタメ本。著者は水族館勤務経験もある人気動物写真家。愛嬌溢れる動物達の姿と「カメレオンの色は〇〇次第」「オカメインコは実は〇〇〇」などのちょっとしたショッキングでユーモラスな豆知識を存分に楽しめる。



『バイデンの光と影』 エヴァン・オスノス 著 (扶桑社)

ドナルド・トランプと一騎打ちを演じ、見事勝利を勝ち取ったジョー・バイデン。これはその波乱に満ちた半生を描いた伝記である。著者はアメリカ在住の著名ジャーナリスト。日本の私たちも必読の1冊。